

和歌山病院での実習を終えて



志風 友規

今回呼吸器内科のポリクリの一環として、和歌山病院で二日間実習させていただきました。主に大学病院では、肺癌に対してのCT、PET-CT、気管支鏡や細胞診といった検査方法や、抗癌剤の選択や臨床試験などの治療選択について、抗癌剤の副作用への対応といった、専ら肺癌について実習します。しかし、和歌山病院では結核をはじめとする感染症やX線画像の正常の読み方を学ぶことができました。普段の大学で私たちがあまりメインで経験しない症例について学ぶことができ、非常に良い経験となりました。特に南方院長の講義では、学生の苦手とする読影方法についての基礎を、そもそも正常の画像とはどのようなものか、なぜそのような画像が得られるか、異常な画像所見ではなぜそうなるのかという原点から考え直す機会を与えていただきました。わかってはいたものの、今までの膨大な医学知識を叩き込むだけになりがちだった勉強では、今後のことを考えると役に立たず、原理原則に立ち返って考えるという思考過程を磨きなおすことが大切なのだと再認識させていただきました。医者になるのに最低限必要となる国家試験で問われる基礎的な知識でも、その基盤のさらに基盤となる知識や思考過程が大切なのだと学ばせていただいたので、とても印象深く記憶に刻まれましたし、今後の勉強に活かしていきたいと思いました。また、肺の区画はとても覚えにくいと感じていたので、ブロンコ体操をみっちり教えてくださったことに感謝しています。駿田副院長のご講義も、普段の大学病院での実習では関わるのが殆どない結核について、詳しく教えて頂けるものでした。そしてその講義の内容を踏まえ、実際の結核患者さんのおられる病棟の見学に行けたことも、とても貴重な経験となりました。

最後になりましたが、一泊二日、実質丸一日という短い間でしたが、南方先生をはじめ、国立病院機構和歌山病院の皆様にはご指導いただき、誠にありがとうございました。夜には南方院長がご飯に連れ行ってお下さりました。地域に根付く伝説や歴史の話などがとても詳しく、興味深く、いい思い出になりました。私も和歌山のいいところを発信できる人になれるように地域のことも知ろうと思いました。和歌山病院で学んだことを今後のポリクリ、研修に生かし、自分も将来一人前の医師になれるよう今後とも精進していきたいと思っています。